



東北大学正門

第 17 号

# 会 報

東北大学教育学部  
同窓会仙台支部

## 教育学研究科・教育学部の 2つの取り組み

教育学研究科長・教育学部長 本郷 一夫

教育学研究科・教育学部では、2011年度から大きく2つの事業に取り組んでいます。その1つが「アジア共同学位開発プロジェクト」です。このプロジェクトでは、東アジアの教育課題に対応できる教育指導者、具体的には教育行政官、研究者、教員などを養成するための共同学位プログラムを開発することを目指しています。今年度は、英語によるサマーコースに加え、外国人大学院生を対象とした日本語によるセミナーを開設しました。また、冬には東北大学教育学研究科の大学院生と韓国の高麗大学の大学院生との研究交流会を開催する計画を進めています。さらに、早い段階からの国際化を進めるために、本年度から、学部3年生を対象とした「海外教育演習」を開設しました。この授業では、海外におけるフィールドワークなどを通して視野の拡大を目指します。

もう1つの取り組みは、震災支援です。昨年度は、「震災子ども支援室」の活動に加え、東北大学復興アクション100+の一環として「東日本大震災被災地域の教職員へのサイコロジカル・エイド」の事業を行いました。具体的には、(1)教員向けの研修会、(2)教職員へのカウンセリング、(3)震災支援に関するシンポジウムなどを行いました。このうち、3月20日に行われたシンポジウム「教育という視点から復興支援のあり方」では、義家弘介文部科学大臣政務官に基調講演をしていただくと

ともに、教育学研究科の4人の教員の取り組みに対してコメントをしていただきました。シンポジウムの内容は教育学研究科のホームページ (<http://www.sed.tohoku.ac.jp>) から見ることができます。

今年度は、文部科学省には「ミッションの再定義」、総長には「東北大学グローバルビジョン(部局ビジョン)」を既に提出し、部局の役割と独自の取り組みを一層明確に意識しながら、新たな歩みを進めていきたいと考えています。今後とも同窓会の皆様の協力とご支援をよろしくお願いします。

(2013. 9. 9)

### 平成25年度 総会のご案内

平成25年度の東北大学教育学部同窓会仙台支部の総会を下記のとおり行います。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

1. 日 時 平成25年11月17日(日) 午後1時
2. 会 場 ホテルJALシティ仙台 2階  
(アエルの西側)
3. 内 容 ①総 会  
②講 話 講師 水原克敏様  
「教育改革の今日的課題」  
③懇 親 会 (会費5,000円)

## 忘年の交わり

支部長 渡邊 宣隆 (39年入学)

今年の3月、本郷研究科長・学部長のお計らいで学部・大学院の卒業・修了祝賀会に参加しました。総長賞や研究科長賞の受賞者のコメントを聴く中で冒頭の言葉を思い浮かべました。今の支部の課題は会員の拡大、とりわけ若年層の発掘です。世代を超え、利害を超えた人間同士の交わりの中で一人一人が学ぶ意欲を高め、世代を超えて活発に忘年の交わりを重ねていくことにより、活力を取り戻していくことが今求められているのではないかと強く感じました。その場で時間を頂き、同窓会への意識付けということでお祝いの詞と共に仙台支部や関東地区同窓会のお話をさせていただきました。また祝賀会の会場で本郷先生、笹田先生、神谷先生をはじめ、加藤(道)先生、小泉先生や2～3人の修了・卒業生とも話をさせていただきました。酒席であっても、なされてきた研究やこれから進めていきたい研究そして学びなどを淡々と謙虚に話す態度から触発されるものがありました。

そこで、当初の課題を別な視点で考えてみました。学び続けることの大切さを現した言葉があります。『少而学 則壯而有為 壯而学 則老而不衰 老而学 則死而不朽』これは江戸末期の儒学者佐藤一斎の言葉です。「少(わか)くして学べば、則ち壯にして為すこと有り 壯にして学べば、則ち老いて衰えず、老いて学べば、則ち死して朽ちず」です。

少(わか)い者も壮年の者も老年の者も参加し学び得るものがあって初めて同窓会が意義のある存在になり若年層の会員の発掘につながるのではないだろうか。各コースの卒論発表会を会員が参観し学生の学びを認識したり、在校生との懇談会を共催し、共に学びあえる機会を設ける等をすれば結びつきが深まるのではないかと考えてみました。実現可能な事を同窓会事務局と話し合えればいいな、などと夢想しているところです。

## 会報担当に指名されて

太田 將勝 (39年入学)

このたび、会報委員会の委員長にご指名いただきましたので、一言、ご挨拶申し上げます。この職責を全うすべく、努力させていただく所存ですので、皆様、よろしく願いいたします。

私は、生まれ育ちは関東ですが、仙台藩士の末裔たる義理の叔父に勧められて、49年前、仙台に来ました。叔父は、東北大学の前身の旧制高校を終え、東京で船舶工学を修めた、少しは有名な造船技師でした。

私は、仙台に学んだこの縁で、40年前、二人の先輩に偶然出会い、いかに生くべきかのご教示に与りました。旧制文学部教育学科26年卒・故山本常次氏と美学美術史科24年卒・故大塚慎三氏です。

その教えとは、人様を大切に思う心づかいを習慣化し、その心づかいの集積が、運命を開き、広くは人々の幸せ、社会の福利につながるという教えです。

人は、誰でも自分が可愛く、自分が有利になるように動きます。自分を宣伝し、人と争います。人間世界の大小の紛争は、自我、利己心から生じます。

この教えでは、自分、相手、社会の三者が満足し、安心できる行き方を探し、実行します。現実の生活を成り立たせてくれている先祖・父母・恩人に感謝し、隣人と仲良くうちとけて暮らすことに価値を置く教えです。

こうした一貫した考えは、教育学科49年卒の廣池幹堂氏が理事長をしているモラロジーの思想に拠るものです。東北大学関東支部の会場を常時提供しておられる麗澤大学は、このモラロジーのミッションスクールです。

日々安定した幸せな老後を送らせていただけるのも、恩師・同窓の皆様、この縁を作ってくれた叔父他近親のお陰と、深く感謝する毎日です。

## スポーツが地域社会 に果たす役割

軍司 啓 (39年入学)

平成24年度支部総会で、社会体育に詳しい中島信博先生のお話を伺う機会を得ました。

私は3.11の大震災後地域の防災対策に取り組んでいます。その中で地域の横の繋がり的重要性を感じているときであったので、私の済む地域におけるスポーツの役割について考えてみました。

私が今の地域に住むようになってはや30年を超える年月が過ぎました。

当時は私には若さも体力も元気もありましたので、地域から誘いがあるたびに参加すること・スポーツに取り組むことを楽しんでいました。

また、その日のうちに反省会と称するコミュニケーションの場が設定され、年齢・男女を超えて地域の繋がりを感じていました。

もちろん、町内会活動等にも若い住民も参加していましたが、10年を過ぎる頃から徐々に参加者が固定し始め、参加者の平均年齢が毎年1歳づつあがっていくようになってきました。

その後は、徐々に参加者を集めることに苦勞するようになり、最近では、町内会単位のチームさえ組めなくなってしまいました。

何故だろう？いろいろな原因を考えてみました。

1つの原因は、団地住民の高齢化が挙げられると思いますが・・・でも、団地に若手はいなくなったのか。確かに数は減っているが居なくなったわけではない。2つ目は、種目の固定化がある。3つ目は、若手の供給源がなくなっている。なぜと考えると学校のPTA活動からスポーツがなくなったことにあるのではとの推測をしています。

改めて、学校が地域づくりに果たしていた役割の大きさに気づくとともに教員の先輩として後輩の方々に学校が地域のスポーツや地域づくりに果たしてきた役割を話し、地域のコミュニケーションの核としての学校の復活を期待しています。

## 生涯スポーツの推進について

金岡 昭房 (33年入学)

8月28日(水)の全国紙に文科省で行った学力テストの結果が載っていた。これで見ると、秋田県・福井県・石川県の上位については、あまり変動が見られなかった。過去の成績も似たような傾向である。宮城県は、平均よりもやや下がっており、今まで上昇していたのが一転下方へと向かっている。県では震災の影響かどうか調べるといふ。そういうこともあるかなと思う。

さて、皆さんは、この学力調査の他に、体力テストなるものがあるのはご存知であろう。その体力テストの上位県は、この学力テストと重なっていることもあるいは知っているかと思う。

幼少の時から運動環境が、こういった学力に表れているとしたら、スポーツは単に健康増進・体力増進だけではなく、勉強への集中力も養っていることになるのではないかと考える。

スポーツは単に競技力の向上をねらうものでないことは周知のこと、高齢者の健康増進や体力維持にもつながり、そういった意味で生涯スポーツの推進にも目が向けられることになる。

文科省では、その推進の一方策として、総務省、厚労省ともタイアップして、基盤となる「総合型地域スポーツクラブの設立」のプランを平成12年度から全国へ発信した。

仙台市以外での県市町村においては、このプランに添って、クラブの設立がなされている。しかし、仙台市では、昭和45年頃より市によって促進されている小学校区毎の「学区民体育振興会(簡単に学体振という)」があり、長年、地域のスポーツの振興に携わってきている。

運動不足と言われる30代~50代の人達が、この身近にある学体振(さまざまな活動がある)に加わり、身体を動かし、同時に未来を担う子ども達のスポーツに積極的にかかわることを期待する。

## 平成24年度 仙台支部事業報告

**第1回支部役員会**  
24年5月5日(日)  
会場 アエル6階  
9時30分から11時30分

**報告事項** 平成23年度仙台支部事業報告・会計決算報告について  
**協議事項** ①平成23年度仙台支部事業報告並びに会計決算報告の承認について  
②平成24年度支部事業計画案並びに会計予算案について  
③平成24年度仙台支部第33回総会・講演会・懇親会原案等について  
④「会報第16号」発行構想原案について  
⑤役員・年度理事改選並びに後補充について  
平成24年度第33回支部総会講師推薦・役員改選並びに年度理事補充等

**顧問会**  
24年7月13日(金)  
**第2回支部役員会**  
24年8月26日(日)  
会場 アエル6階  
9時30分から11時30分

**協議事項** 平成24年度仙台支部33回総会運営について  
①平成24年度記念講演講師報告  
②平成24年度第33回総会・講演会・懇親会の役割分担について  
③平成24年度仙台支部第3回役員会日程等について  
その他「会報第16号発行」 総会案内状発送事務協力依頼

**第33回仙台支部総会**  
24年11月18日(日)  
会場ホテルJALシティ仙台  
**第3回支部役員会**  
25年1月13日(日)  
会場ホテルJALシティ仙台

**総会内容**  
**講演会** 講師 東北大学教育学部教授 中島信博様(成人継続教育論講座スポーツ文化論)  
「地域社会から見たスポーツ」  
①第33回支部総会の反省及び会計報告  
②平成24年度事業及び会計中間報告  
③平成25年度総会日程等協議

平成25年3月31日

### 平成24年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計決算報告

#### I 一般会計

##### 1. 収入の部

(△ 予算額との比較減 単位:円)

	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
会費	390,000	388,000	△ 2,000	延べ388人
繰越金	1,175,313	1,175,313		
雑収入	997	46,854	45,857	利子等
合計	1,566,310	1,610,167	43,857	

##### 2. 支出の部

(△ 予算額との比較減 単位:円)

事務局費	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
印刷費	136,000	108,099	△ 27,901	
消耗品費	80,000	73,700	△ 6,300	封筒、葉書等
備品費	25,000	8,159	△ 16,841	用紙、インク等
事務手当	3,000	0	△ 3,000	文具類
雑費	25,000	25,000	0	5,000×5人
会費振込手数料	3,000	1,240	△ 1,760	送金料、印字代
会議費	45,000	30,720	△ 14,280	会費振込手数料
通信連絡費	50,000	38,760	△ 11,240	役員会他
会報費	200,000	60,950	△ 139,050	総会案内等
印刷費	60,000	53,050	△ 6,950	
印刷費	50,000	43,050	△ 6,950	会報印刷代
会議費	10,000	10,000	0	会議費
総会費	65,000	35,000	△ 30,000	
会場費	20,000	0	△ 20,000	
表示関係費	10,000	10,000	0	演題、看板等
装飾費	5,000	0	△ 5,000	
講演会費	30,000	25,000	△ 5,000	講師謝礼、車代
慶弔費	10,000	0	△ 10,000	
雑費	5,000	2,572	△ 2,428	
予備費	295,310	280,500	△ 230,255	旅費
運用基金	700,000	700,000	0	
合計	1,566,310	1,094,206	△ 472,104	

※収入総額1,610,167円－支出総額1,094,206円＝残高515,961円は(次年度へ繰り越します)

#### II. 運用基金

収入700,000円(一般会計予備費より)－支出0円＝差引残高700,000円(次年度へ繰り越します)

### 会計監査

平成24年度東北大学教育学部同窓会仙台支部会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ、整備が完全でありますこと報告いたします。

平成25年3月31日

監事 笹田 博通  
監事 荒木 聰恵

## 平成25年度 仙台支部事業計画

**第1回支部役員会**  
25年5月4日(日)  
会場 アエル6階  
9時30分から11時30分

**報告事項** 平成24年度仙台支部事業報告・会計決算報告について  
**協議事項** ①平成24年度仙台支部事業報告並びに会計決算報告の承認について  
②平成25年度支部事業計画案並びに会計予算案について  
③平成25年度仙台支部第33回総会・講演会・懇親会原案等について  
④「会報第17号」発行構想原案について  
⑤役員・年度理事改選並びに後補充について

**顧問会**  
25年6月中旬  
**第2回支部役員会**  
25年8月24日(土)  
会場 教育学部研究棟  
10時00分

**協議事項** 平成25年度第34回支部総会講師推薦・役員改選並びに年度理事補充等  
**協議事項** 平成25年度仙台支部仙台支部34回総会運営について  
①平成25年度記念講演講師報告  
②平成25年度第34回総会・講演会・懇親会の役割分担について  
③平成25年度仙台支部第4回役員会日程等について  
その他「会報第17号発行」 総会案内状発送事務協力依頼

**第34回仙台支部総会**  
25年11月17日(日)  
会場 ホテルJALシティ仙台

**総演題懇親会内容**  
講師 早稲田大学教育・総合科学学術院特任教授 水原克敏様(教育課程論)  
「教育改革の今日的課題」

**第3回支部役員会**  
26年1月5日(日)  
会場 ホテルJALシティ仙台

①第34回支部総会の反省及び会計報告  
②平成25年度事業及び会計中間報告  
③平成26年度総会日程等協議

平成25年4月1日

## 平成25年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計予算

### I 一般会計

#### 1. 収入の部

(△ 前年度比較減 単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
会費	390,000	370,000	△	20,000
繰越金	1,175,313	515,961	△	659,352
雑収入	997	539	△	458
合計	1,566,310	886,500	△	679,810

#### 2. 支出の部

(△ 前年度比較減 単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
事務局費	136,000	126,000	△	10,000
印刷費	80,000	80,000		0
消耗品費	25,000	15,000	△	10,000
備品費	3,000	3,000		0
事務手当	25,000	25,000		0
雑費	3,000	3,000		0
会費振込手数料	45,000	35,000	△	10,000
会議費	50,000	50,000		0
通信連絡費	200,000	150,000	△	50,000
会報費	60,000	60,000		0
印刷費	50,000	50,000		0
会議費	10,000	10,000		0
総会費	65,000	65,000		0
会場費	20,000	20,000		0
表示関係費	10,000	10,000		0
装飾費	5,000	5,000		0
講演会費	30,000	30,000		0
慶弔費	10,000	10,000		0
雑費	5,000	10,000		5,000
予備費	295,310	280,500	△	14,810
運用基金	700,000	100,000	△	600,000
合計	1,566,310	886,500	△	679,810

### II 運用基金

#### 1. 収入の部

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
繰越金	0	700,000		0
一般会計より	700,000	100,000	△	600,000
雑収入	0	100		100
合計	700,000	800,100		100,100

#### 2. 支出の部

現在支出の予定はない。支出は現時点では0円。

※ 一般会計からの額は、その年の決算残額によって変わる。

## ざるがわ 筑川にて

石森 幸子 (29年入学)

ざるがわ  
筑川は私の絵のモチーフの一つです。この川は太白山の麓の佐保山から鉤取、富沢、大野田等を通り南部道路の下を潜って名取川に注ぎます。名取川はまもなく広瀬川と合流し、閑上港に向かいます。

私の写生のスポットからは広瀬川と合流した名取川が細まりながら帯のように流れて消えていくようすがよく見えます。

悠々と流れる北上川のそばで育ったせいか川を眺めていると心が落ち着きます。

仙台に来た頃、名取川も歌にうたわれる広瀬川もなんで小さな川なんだろうと思っておりました。が、いつの間にか四季折々の風情が繊細で趣きがあり、味わい深く感じられるようになりました。

筑川を訪ねたのは、台風が去って風の爽やかな午後でした。川は満々と水を湛え、コバルトブルーの空を映しながらゆったりと流れています。

「今度はこれを描こう。」と心に決め、2～3日後、スケッチブックを携えて行きました。ところがびっくり。あの豊かな川はどこへ行ったのでしょうか。水は川底をちょろちょろ流れているばかり。驚いてどうしたものかと橋に寄り掛っていると、散歩で通りがかった人が「今は干潮なのよ」と教えてくれました。ここからは見えない海の潮が、この小川まで上ってくるというのです。私は満潮に合わせて描きにくることにしました。

最も描きたいのは冬の景色です。冬は風が川に添って凄まじい勢いで吹き抜けます。60号のキャンパスが風に飛ばされないように三脚にくくり着け、三脚は橋に固定します。橋の下を覗くと小魚が泳ぎ、小亀たちが日向ぼっこをしています。冷たく澄んだ空気の中を芒の穂が飛んでいきます。私はこんな自然の息遣いに浸りながら、冬の澄明感を表現したいと寒さも年齢も忘れてキャンパスに絵の具を塗り、至福の時を過ごします。

## 東北大学の傍らで

岡本 幸子 (35年入学)

### ◇さあ、第2の人生へ

定年後、仙台に戻れた私は、のんびり生活数か月後に異変に気づく。無性に人恋しく話がしたい元気が出ない。長い教師生活からの後遺症・・・？

### ◇東北大学の足下に帰ってきた

仙台には毎年1万人を越す外国人の登録がある。世界に門戸を開く東北大学の留学生は特に多い。彼らの学びの土台は日本語だ！教えてみたい。

早速、国際交流協会に飛び込み、日本語ボランティア登録を願い出る。僅かの研修で夢がかなう。

### ◇各国の留学生と学ぶ

教室には、中国人、韓国人、アメリカ人、フランス人、インド人など、最近ではマレーシア人、ベトナム人、バングラディッシュ人が増えている。国と国との関係の変化がここでも感じられる。彼らの専門は、工学部、農学部、経済学部、教育学部、医学部、国際学部、情報学部などの修士、博士課程の留学生が多いが、中には、東北大学の学部入学を目指す受験生もやってくる。学生からの要請は広く、単に日本語学習では終わらない。政治、宗教など、深入り禁止の領域もある。昔覚えたことを思い出し、学習し直しては伝えていく。久しぶりにシナプスが手を結びあい、脳細胞の活性化を何となく感じる。アンチエイジング！

### ◇苦しみも、喜びも共に

震災の時、携帯に、PCに「先生、生きています？」と各国からe-mailが届く。道で会ったときも、必ず自転車から降りて挨拶してくれる。ハグもある。今年は個人指導の学生が東北大学、学部生に合格した。母？代りに列席、里見総長の訓示を学生の気分で伺う。「青葉もゆる・・・」。最高でした。

### ◇OBの皆さまの宝も分けてください

留学生は、同窓の皆様の貴重なお話をどんなにか喜ぶことと思います。世界を担う若者と皆様もお話してみませんか

## 及川平治先生について

小堀 恒男 (25年入学)

- (1) 現今の学校は人の個性の発達を抑圧して、悉くこれを平均化し、同一の鑄型に投じている。これではとても独創、発見、創造、自働に富む人間をつくることはできない。
- (2) 児童本位の教育を樹立すべきである。児童の個性の伸長を図り、その境遇、性質、能力を顧慮し男女の特性に注意すべきである。
- (3) 教えるだけ記憶せよとする教育は子供に対する記憶の強要である。教育とは本来、子供が自由な発想に基づいて自らの思考力や創造力を伸ばしていくものである。故に教師中心の教育を改め、子供の学習が主体的になるようにせねばならない。
- (4) 動的教育、即ち、為すことによって学ぶ教育こそが真の教育である。
- (5) 動的教育を充実させるために学校は、自学する子供を育てなければならない。自学とは過去の経験を自力で改造する過程である。

以上は、大正元年に発刊されベストセラーとなった及川平治の名著「分団式動的教育法」の主旨の一端である。

児童中心主義を標榜する大正新教育運動の先駆者として日本の教育界に一大革新を起こした及川平治の名は、日本教育史に燦然と輝いている。

晩年に仙台市教育研究所の所長も務めている。

しかしながら現在、その出身地である宮城県でその名を知る人は極めて少ない。

約30年も主事として活躍したのが遠い兵庫県明石女子師範学校附属小学校であったこと、活躍期の後半である昭和初期は軍部の台頭により自由主義が抑圧されたためもあろう。

平成10年代になって奇しくも生まれ故郷の若柳、そして明石と仙台で、及川平治を顕彰する事業が相次いで行われた。宮城が生んだ偉大な教育者に関心を持たれるよう望みたい。

## 教育学部本部同窓会から

本部同窓会事務局長 神谷 哲司 (H2年入学)

本号より仙台支部会報の場をお借りして、教育学部同窓会本部の動向をお知らせすることとなりました。みなさまにも同窓会の動きを知っていただくことで、より一層の活動へつなげてまいりたく存じます。

平成24年度の事業といたしましては、以前より行われております卒業・修了学生の祝賀会援助事業、ならびにここ数年来、定着してまいりました現役学生への海外学会発表渡航費援助事業、さらに仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業があげられます。

平成25年度の事業計画といたしましては、上記3つの事業に加え、新たに同窓会名簿の整理に関する事業に新たに取り組むこととなりました。ご存知の通り、アクティブな会員のみなさまの高齢化が進む中、教育学部同窓会本体そのものの存続すら危ぶまれつつあるところですので。そうした状況の中、同窓会の根幹をなす名簿そのものをまず整理することで、これまで以上の長期的視野を持った同窓会の姿へと展開していくことができればと考えております。

そのためには、現在、アクティブに活動してくださっているみなさまから新たな世代へのご指導、ご教示が欠かせません。また、同窓会本部といたしましては、若い世代や現役学生に同窓会への帰属意識を持ってもらえるような、新たな事業にも着手したいと考えています。その手始めとして、平成24年度卒業・修了生の祝賀会には、渡邊宣隆仙台支部長にもご来席賜り、卒業生・修了生に対してご祝辞を頂戴いたしました。

日本社会と同様、本同窓会もまた大きな転換期を迎えております。これまで以上にみなさまからのご助力・ご協力を賜りたく存じますので、なにとぞ、よろしくごお願い申し上げます。

# 仙台支部役員名簿

(平成23. 11. 20～平成25総会時)

顧問	26 佐々木一洋	大学 本郷 一夫
	28 永野 昌一	31 雪江 美久
	36 岡崎 忠	36 阿部 琢也
	37 関口 隆	
支部長	39 渡邊 宣隆	
副支部長	39 軍司 啓	50 吉川 邦彦
参与	24 岩淵昌次郎	24 富塚 英雄
"	29 石森 幸子	31 杵澤 怜
"	32 佐々木亀三郎	33 佐藤 健仁
"	35 伊藤 昭	39 大浪 榮一
"	祥賑 菅井 邦明	元祥賑 菊池 武剋
"	祥賑 荒井 克弘	元祥賑 細川 徹
"	祥賑 宮腰 英一	
理事	24 佐藤 弘	
"	25 高橋 公正	25 静田 一
"	26 池田 和夫	
"	27 青木 敏浩	27 阿辺 博亮
"	28 小關 幸生	28 桂島 新一
"	29 市川 宏	29 佐藤庸太郎
"	30 千葉 俊雄	
"	31 今野 健	31 飯澤 道久
"	31 渡邊 健夫	
"	32 煤田 泰蔵	32 村上 重作
"	32 竹澤錬太郎	
"	33 金岡 昭房	33 山形美也子
"	34 河東田春樹	34 工藤 忠久
"	35 泉 豊	35 岡本 幸子
"	36 小野 淳	
"	37 賀屋 義郎	37 佐々木典雄
"	38 文屋 優	38 文屋 國昭
"	39 朴澤 徳昭	39 太田 將勝
"	40 吉野 信武	
"	41 安住 裕	48 櫻田 博
"	50 別府 成裕	
"	51 日下 毅	51 佐藤 邦宏
"	52 白澤 利広	54 南城 一之
"	57 川上 芳夫	H 4 吉植 庄栄
監事	37 荒木 聰恵	48 笹田 博通
大学理事	H博 八鍬 友広	H元 神谷 哲司
事務局長	39 軍司 啓	
事務局補佐	37 関口 隆	

# 各委員会から

下記のように委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

## 会則検討委員会

委員長	31 杵澤 怜
副委員長	31 今野 健
委員	25 静田 一 28 桂島 新一

## 名簿作成委員会

委員長	33 金岡 昭房
副委員長	35 泉 豊
委員	25 高橋 公正

## 会報発行委員会

委員長	39 太田 將勝
副委員長	31 渡邊 健夫
委員	38 文屋 優 39 軍司 啓

## 会計委員会

委員長	29 石森 幸子
副委員長	31 朴澤 徳昭
委員	35 岡本 幸子 37 佐藤 勝子

## 後記

◎会報17号をお届けいたします。ご多用の中、玉稿をお寄せ頂きました方々に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

◎委員長(太田將勝氏)が交代しての初仕事です。原稿依頼等期間が短いことがあったかと思いますが、誤字脱字等をなくしたいとの思いから、校正を3回実施いたしました。

◎総会にご出席の際は、この会報をご持参いただきますように。(軍司 啓)

## 事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-7-18  
軍司 啓 TEL 070-5322-3322